

広島県鉄構工業会 60 人

BIM 活用セミナー開催

新年会

広島県鉄構工業会（理事長 山本泰徳・ステントス社長）は23日、広島市のシェラトングランドホテル広島で新年互礼会を開催、組合員のほか広島県、関連団体や大学などから来賓も訪れ、約60人が参加した。互礼会の前には、BIM 活用に関するセミナーも開かれた。

新年互礼会の冒頭、山本理事長は「各業界でシステムは進化しており、例としてタクシ―業界はここ数年のタクシ―アプリの普及で大きく変わった。ドライバ―、利用者ともに利便性が高まり、若いドライバ―も増えている。建築業界でも各種システムの進化、各業者での導入が広がっている。われわれの業界も労働時間の制約などを受け、作業効率を大幅に上げていかなければならない。周りの変化に気付き、新しいツールの活用で生産性を高めるなどし、ともに前進していこう」とあいさつ。

その後、広島県土木



山本理事長

建築局の吉田勝則建築技術担当部長、日本建築学会の田中貴宏中国支部長、日本建築構造技術者協会（JSSCA）の近松英樹中国支部長

が祝辞を述べ、広島大学の松尾彰名誉教授が乾杯を発声。歓談中には、このほど新規会員となった梶田鉄工の梶田哲也社長があいさつに立った。

セミナーでは、トリプル・ソリューションズの浜崎幸三カントリーマネージャーら3人が、トリプル社の構造向けBIMソフトウェア「Tekla Structure」の概要、活用事例と導入効果などを紹介した。